

第2回 健康維持増進住宅研究委員会 議事要旨

1. 日時： 平成20年3月21日(金) 10:00～12:00
2. 場所： 国土交通省共用会議室B(合同庁舎3号館10階)
3. 出席者： 村上委員長、坊垣副委員長、吉野部会長、田辺部会長、小泉部会長、伊香賀部会長、石川委員、坂部委員、坂本(功)委員、坂本(雄)委員、信田委員、東嶋委員、米田委員、浅野委員、成川委員、村木委員(代理：村関氏)、富田委員、菊池委員、尾菌委員
坂本(努)委員、小林委員(代理：松下氏)、喜多見委員(代理：横手氏)
和泉住宅局長
オブザーバー： 環境省、(独)都市再生機構、(独)住宅金融支援機構、(財)ベターリビング、(財)住宅リフォーム・紛争処理支援センター
事務局： 国土交通省住宅局住宅生産課、(財)建築環境・省エネルギー機構、(株)野村総合研究所
4. 議事：
 - (1) 研究委員会の枠組みとヘルスキャピタルの提案
 - (2) 各部会等の活動報告
 - 1) 健康影響低減部会
 - 2) 健康増進部会
 - 3) 設計部会
 - 4) 健康コミュニティ推進部会
 - 5) 普及促進委員会
 - (3) フリーディスカッション
 - (4) 今後の進め方について
5. 議事概要：

議事に先立ち、和泉住宅局長より挨拶

 - (1) 研究委員会の枠組みとヘルスキャピタルの提案(資料5-1、5-2)
村上委員長より本研究委員会の背景と今後の展望についての説明が行われ、本研究委員会の目指すべき方向を再度確認した。

(2) 各分会等の活動報告(資料6～10)

- 2-1) 健康影響低減部会吉野部会長より、研究を進めるにあたって室内空気質・湿気問題検討等5つの小委員会を設置して活動を行い、室内空気汚染や湿気問題、熱環境問題、気温変化など健康影響要因に関するデータを蓄積していること、今後は良質な住宅の設計に寄与するための室内環境の基準案の作成等に取り組むことが報告された。
- 2-2) 健康増進部会田辺部会長より、木材、住宅設備、光・音環境、ペット等といった検討項目に関する現状と今後の課題や、健康増進に関する評価方法における評価指標の整合性や有効性など検討すべき事項等の報告がされた。
- 2-3) 設計部会小泉部会長より、健康維持増進住宅の有効な設計手法を開発するための、健康概念や自然素材、心理影響等についての基本的考え方や、設計手法の枠組みについて検討すべき事項について報告された。
- 2-4) 健康コミュニティ部会伊香賀部会長より、健康コミュニティの検討対象モデル(都市部、中山間地域等)の検討内容等や健康コミュニティ評価のための持続性や住環境、まちづくり活動、環境負荷指標などの評価項目・指標等について報告された。
- 2-5) 普及促進委員会坊垣委員長より普及・広報、各分会の横断的支援といった本委員会の活動の目的についての説明が行われた。また、シンポジウムの開催やコンソーシアムの設立準備等活動の紹介が行われた。

(3) フリーディスカッション(主な意見)

- ・ 健康維持増進住宅の評価にあたってはライフステージ等多種多様で複雑な要因が影響するため、非常に難しく、ある程度スタンダードを決めて分類して整理していくのがいいのではないか。
- ・ 光と家とのバイオリズムなど、いわゆる人間の五感や感覚器と関係するプロジェクトや電磁波と防腐剤の複合的な影響など医学的な観点での取り組みを是非いれて欲しい。
- ・ 「住育」というキーワードはとても分かりやすく、いいキーワードである。住環境における個人の健康、地域・地球における健康というこの2点から住育というものを進めるようなテーマ設定等に取り組んではどうか。
- ・ 木材については健康にも環境にも負荷の少ない材料として今一度見直されるべきである。客観的なデータなどをもとに全体の中に組み入れてもらいたい。
- ・ 暖房については日本において量的な水準が低い。快適性を保つための量的な充足と省エネという両方の視点から提案したい。
- ・ 嗅覚も最近認知できない生理機能を変化させるものとして注目されているので、そういった側面からの検討も進めて欲しい。

(4) 今後の進め方について

研究ロードマップの説明があり、今後の取組とスケジュールを確認した。

以上